

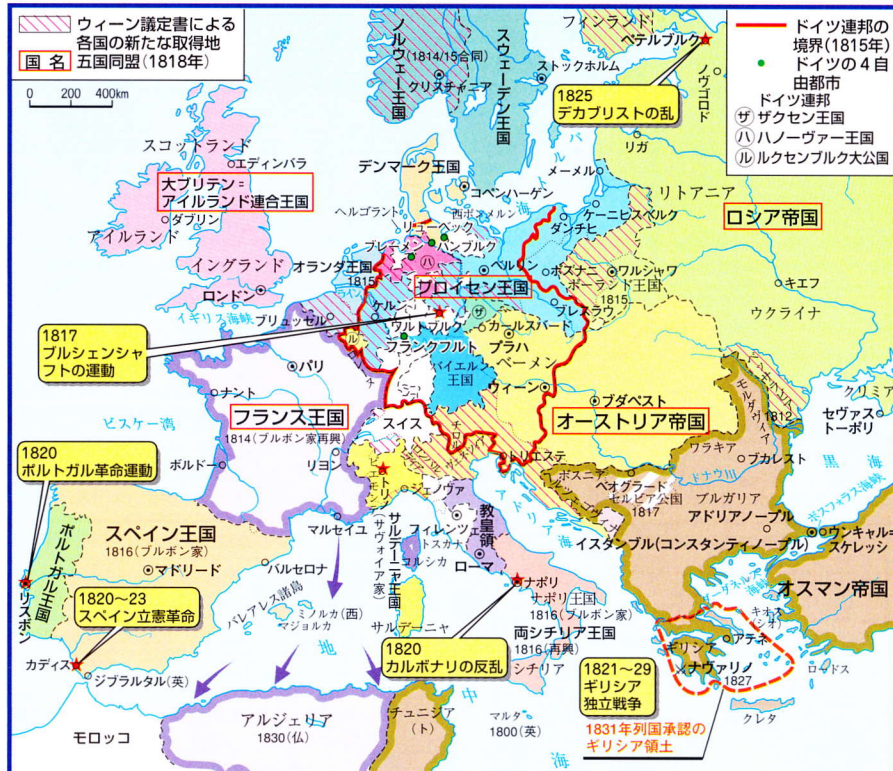
2 ウィーン体制下のヨーロッパ革命(第1波)

★自由・国民主義運動の発生地(1815~29年)

1 ウィーン体制

赤字：自由主義運動 (○は成功)
青字：国民主義運動

ウィーン体制	自由・国民主義運動	革命の第1波
1814.5 ナポレオン、エルバ島に配流 .9 ウィーン会議開催(奥[?]外相メッテルニヒの提唱)		
1815.3 ナポレオン、パリに戻り復位(～.6 百日天下)		
.6 ウィーン議定書調印 ウィーン体制成立		
.9 神聖同盟(露皇帝アレクサンドル1世の提唱、英王・ローマ教皇・トルコ皇帝を除く)		
.11 四国同盟(奥・普[?]・露・英→1818 アーヘン列国会議で仏が参加して五国同盟)		
カールスバードの決議(1819)	弾圧 プルシェンシャフトの運動(1817)	
オーストリア軍の出兵(1821)	鎮圧 カルボナリの反乱(1820~21)	
ヴェ罗纳会議(1822)→	鎮圧 スペイン立憲革命(1820~23)	
フランス軍の出兵(1823)	(指導者 リエーゴ)	
メッテルニヒ、五国同盟で干渉企図	ラテンアメリカの独立(1810年代~20年代)	
	(指導者 シモン=ボリバル)	
	英、五国同盟脱退(1822)	
	米、モンロー宣言発表(1823)	
ニコライ1世が鎮圧(1825)	鎮圧 デカプリストの乱(1825)	
神聖同盟、ギリシア独立に反対決議	鎮圧 ギリシア独立戦争(1821~29)	
	(反トルコ民族運動)	
	露・英・仏の支援	
フランス・ブルボン朝の崩壊(1830.7)→七月王政の成立	七月革命(1830)	
	鎮圧 ベルギー独立(1830)	
ロシア軍の出兵(1831)	鎮圧 ポーランド騒乱(1830~31)	
オーストリア軍の出兵(1831)	鎮圧 イタリア騒乱(1831)	
	英第1回選挙法改正(1832)	
	独関税同盟の成立(1834)	
フランス・七月王政の崩壊(1848.2)→第二共和政の成立	二月革命(1848)	
	英チャーティスト運動高揚(1848)	
メッテルニヒ、イギリスに亡命 ウィーン体制崩壊(1848.3)	鎮圧 ウィーン・ベルリン暴動(1848)	
オーストリア軍の出兵(1848) 鎮圧 ミラノ暴動(1848)	鎮圧 ベーメン民族運動(1848)	
オーストリア・ロシア軍の出兵(1849)	鎮圧 ハンガリー民族運動(1848)	
オーストリア軍の勝利(1849) 挫折 サルデーニャの	(指導者 コッシュート)	
フランス軍の出兵(1849) 対壊戦争(1848~49)	失敗 イタリア共和国の成立(1849)	
プロイセン王のドイツ皇帝就任拒否	フランクフルト国民議会(1848~49)	
	革命の第2波	
	革命の第3波	



メッテルニヒ
ウィーン会議を主宰した若きオーストリア外相(1821~48年宰相)。



ギリシア独立戦争とロマン主義

個性や感情を重視するロマン主義(18世紀末~19世紀中頃)は、当時の国民主義の動きと結合。ギリシア独立戦争(1821~29)では詩人バイロン(英)が義勇軍として参戦し、画家ドラクロワ(仏)は、「シオの虐殺」でトルコ軍の蛮行を描きギリシア支援を世界に訴えた。

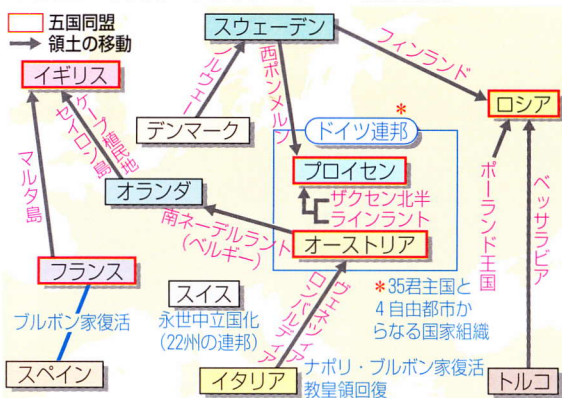


3 ウィーン会議(1814.9~15.6)

解説 フランス革命・ナポレオン戦争の処理について、大小143の王国・公国の代表が集まった。ポーランド・ザクセンの処分問題で紛糾、「会議は踊る、されど進まず」と風刺されたが、仏代表タレーランの正統主義を原則に妥協が成立した。

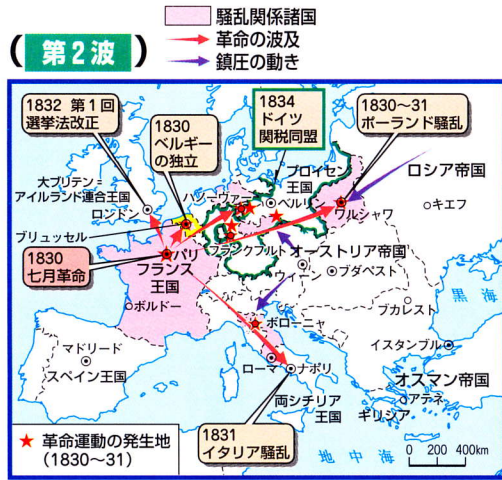


●領土・体制の変更(ウィーン議定書)

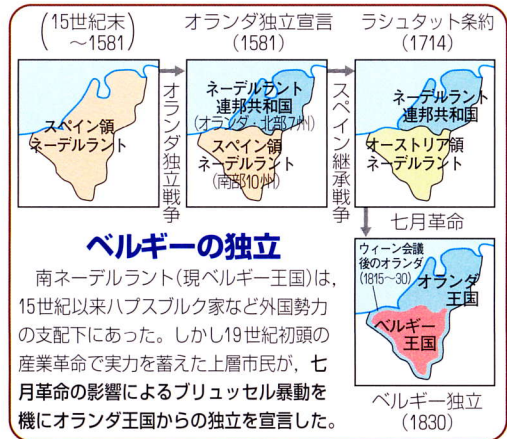


「シオの虐殺」ドラクロワ(1824年) 縦419cm、横354cm



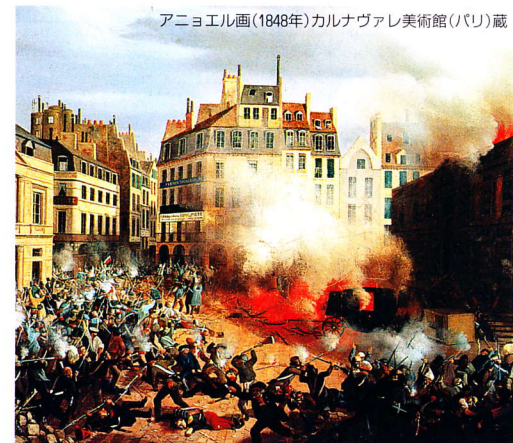
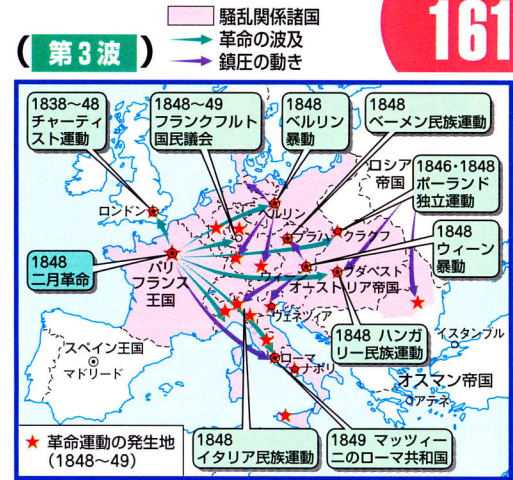


◀「民衆を導く自由の女神」ドラクロワ 七月革命の「栄光の3日間」を描いたもので、シルクハットの男はドラクロワ自身といわれる。豊富な色彩で躍動する情熱と劇的な緊張感を表現したフランス＝ロマン主義絵画の代表作。(1830年) 縦259cm、横325cm ルーヴル美術館蔵



4 七月革命と二月革命

七月革命(1830.7.27~29)	二月革命(1848.2.22~24) (P150号)
原因 ●ブルボン朝の王シャルル10世(ルイ18世の弟)の反動政治(例: 亡命貴族への年金) ★ラファイエット(フランス革命で活躍した自由主義者・国民軍司令官) ★ティエール(自由主義者) ●市民(ブルジョワ)革命(自由主義的改革)	原因 ●オルレアン朝の王ルイ=フィリップの金融資本家・大資本家保護政策 指導者 ★ラマルティエヌ(共和主義者・詩人) ★ルイ=ブラン(社会主義者) 性格 ●自由主義的改革の拡大と社会主義的改革
経過 七月勅令(議院解散・出版の自由制限・選挙資格の縮小など) ↓ パリ市民の武装蜂起 七月革命(市街戦「栄光の3日間」) ↓ 国王シャルル10世のイギリス亡命 ↓ 新国王ルイ=フィリップ(オルレアン公)即位	経過 ギゾー内閣による改革宴会(全国大会)の禁止 ↓ 産業資本家・中小市民・労働者の蜂起 二月革命 ↓ 国王ルイ=フィリップのイギリス亡命 ↓ 共和主義者と社会主義者による臨時政府
新政体 立憲君主政(七月王政) ●金融資本家の影響大 ●責任内閣制 ●制限選挙(全人口の1%以下)	新政体 第二共和政 ●国立工場(国立作業場)をめぐる共和主義者と社会主義者の対立 ●四月選挙で敗北した社会主義者の六月暴動 ●ルイ=ナポレオンが大統領に就任
影響 ●ドイツ騒乱(1830) → 一部領邦で憲法制定 ●ポーランド騒乱(ワルシャワ革命 1830~31) → ロシア軍による鎮圧 ●ベルギーの独立 → ロンドン会議で承認(1830) ●イタリア騒乱(カルボナリの革命 1831) → オーストリア軍による鎮圧 ●マッツィーニの青年イタリア結成(1831) ●イギリスの第1回選挙法改正(1832) ●ドイツ関税同盟の結成(1834)	影響 ●ウィーン暴動(三月革命)(1848) → メッテルニヒ亡命 → フランクフルト国民議会 ●ハンガリー(指導者コシュート)・ポーランド・ベーマンの民族(独立)運動(1848) → ロシア・オーストリア・プロイセン軍による鎮圧 ●イタリア民族運動(1848) → オーストリア ●サルデーニャの統一運動(1848) → 軍により失敗 ●マッツィーニのローマ共和国建国(1849) → フランス軍により崩壊 ●チャーティスト運動最高潮(1848 イギリス)
結果 ●産業革命の進展とウィーン体制の破綻	結果 ●ウィーン体制の崩壊



◀アニョエル画(1848年)カルナヴァレ美術館(パリ)蔵
 二月革命 1848年2月22日に起こった反動的首相ギゾーの辞職を求めるデモ行進は、24日には民衆(右側)と国王軍(左側)が衝突し、激しい市街戦となった。絵はシャトー=ドーの要塞前の市街戦。当時、共和主義的若者にひげと長髪が流行した。

●「1848年」の意義

- ブルジョワとプロレタリアートの対立の構図
「共産党宣言」の発表(1848)など社会主義者・労働者階級が新しい政治勢力として台頭したことに對して資本家階級が保守化。労資の対立が表面化する。
- 国民主義・民族主義の進展
「諸国民の春」と呼ばれる一連の民族解放運動が起こり、これらの多くは挫折したもの、その精神はヨーロッパ各地域に存続していく。
- 資本主義的世界システムの完成
カルフォルニア(米)での金鉱発見(1848)に始まる一連のゴールドラッシュによる金融市場の拡大で、世界経済が好景を迎え、資本輸出の時代が到来する。